慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 創造的ディジタルメディアの基礎と応用に関する研究 : 「ジェネティッツク・ アーカイヴ・ エンジン」理論編よりアート・ アーカイヴズ論の概念枠組みの構築に向けて(平成12年度科学研究費補助金(COE形成基礎研究費)研究報告書,アート・ アーカイヴズ/ドキュメンテーション : アート資料の宇宙) |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | |
| Publication year | 2001 |
| Jtitle | Booklet Vol.7, (2001. ) ,p.85- 89 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11893297-00000007-04394222 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

平成12年度科学研究費補助金（COE形成基礎研究費）研究報告書

# 創造的ディジタルメディアの基礎と応用に関する研究

## 「ジェネティック・アーカイヴ・エンジン」理論編より
## アート・アーカイヴズ論の概念枠組みの構築に向けて★1

### 1. アート・アーカイヴズ研究の視座

アート・センターがCOE研究として関わったジェティック・アーカイヴ・エンジンで取り上げた、もしくは取り上げられるべきアート・アーカイヴズに関する問題の領域を以下に示したい。

アート・センターが創立以来ADR研究会を中心に、アート・アーカイヴズに関して行なってきた研究の視座は次のように要約できる。

「アート・センターは設立当初よりその活動の一つとして現代芸術に関する『研究アーカイヴズ』の構築にも関心を寄せてきた。」★2

「そもそも『アーカイヴズ』とは、ある特定の主題に関するドキュメント（一次資料）を収集・保存・管理する機関を意味するが、アート・センターにおけるアーカイヴズ活動とは、更に一歩踏み込んで、研究文献（二次資料）の収集・蓄積と研究情報の検索の具体化に重点を置いた研究アーカイヴズの構築を目指している。」★3

以上の問題意識の下にアーカイヴズについての理解を深めるためには、少なくともその研究領域は以下のような問題点を包含しなければならない。

### 2. アート・アーカイヴズ論の構成要素

アートであれ、他の主題や領域であれ、アーカイヴズとして記録された情報資料を管理し、保存する以上、以下の問題についての基本的な対応をとることが学術研究を行うものにとっての大前提となる。

2.1　アーカイヴズ論への視点

2.2　アーカイヴズの構成要素

2.2.1　アーカイヴズの専門的職員（アーキヴィスト）

①主題専門（アート研究者としての）アーキヴィスト

②情報管理専門アーキヴィスト（図書館司書に近い）

③保存・修復・媒体変換等の特殊技能保持者

2.2.2　アーカイヴズにおける情報資源

①アートと記号★6

②記号表現、記号、記号内容★4

2.2.3　アーカイヴズの施設と設備

①収蔵設備

②閲覧・利用設備

③修復・媒体変換の設備と施設

2.2.4　アーカイヴズの利用者

①主題専門研究者(アートの研究者等)

②資料の研究者（書誌学者等）

③一般利用者（情報開示請求者、鑑賞者、教養・娯楽のための利用者等）

2.3　アーカイヴズにおける情報資源の管理

2.3.1　コレクションとなりうる情報

(1)情報と資料（自然資料と人工資料）

(2)情報と文献（Document）

(3)作品、著作物、出版物

2.3.2　情報資源（コレクション）の構築；評価・選別か、網羅的収集か

(1)誰が誰のためにコレクションを作るのか

(2)どのようにしてコレクションを作るのか

①Collection Policy Statement をどうするか

②評価・選別を誰が、どのような基準で行うのか

③網羅的収集の実現可能性(網羅的収集かネットワークか)

(3)アート・コントロール(情報管理における書誌調整に相当)は可能か

(4)コレクションのメンテナンスと保存

2.3.3　情報資源の組織化

(1)組織化の構造；分類、目録、索引の役割分担と相互の関係

(2)書誌要素、書誌データ

(3)分類；同一の類（タクソン★7）の集中と類別

・研究用の分類；（例）生物分類、商品分類＝知的高次な構成

・管理用の分類；（例）図書館分類＝排架場所の決定

(4)目録；情報パッケージの識別とその所在場所の指示

・個別アーカイヴズの所蔵目録

・関係する複数のアーカイヴズによる総合目録

・National(Universal) Union Catalog

（例）ゲスナーの万有書誌★3

(5)索引

2.3.4　情報資源の提供；アーカイヴズ・サービス

(1)Accesibility；対象（情報資源）の識別、所在の確認

(2)Availability；対象（情報資源）の入手・利用（分析・評価・鑑賞）の実行可能性

(3)Reference Service；利用者が円滑な利用をするための個人的な援助

(4)研究支援

(5)利用指導・啓蒙・普及

2.3.5　情報資源の管理に関する標準化と規格化

(1)用語の標準化

(2)管理・組織化のツールの標準化とそれによる情報流通の円滑化・広域化

2.4　アーカイヴズの運営

2.5　デジタル・アーカイヴズ

2.5.1　アーカイヴズ資料のデジタル化

2.5.2　アーカイヴズ資料利用者の情報リテラシーの向上

2.5.3　アーキヴィストのデジタル化対応能力の涵養

## 3. アーカイヴズ構成要素についての補足的説明

2.に示されたアーカイヴズ論の構成要素の中、若干の項目について、簡単な補足を以下に行う。

### 「2.1.1　文書・資料館、研究アーカイヴズ論」

研究等の特定目的を持った資料類を特定目的のために利用しやすく管理・保存する。

利用者は同一の利用目的を持った特定少数者であり、それら特定少数者が自らの情報価値観で選別・評価した資料類の集合体を、コレクションとして管理・保存対象とする。アーキヴィストは資料内容に精通する必要はなく、専門家としての利用者が資料利用するにあたっての補助者であればよい。

### 「2.1.2　情報管理システムとしてのアーカイヴズ論（一般アーカイヴズ論）」

社会的な文化保存の立場から、不特定多数の利用者を想定し、いかなる立場や視点からの資料要求にも対応できることを目的とするアーカイヴズ活動。研究活動だけでなく、業務、文化活動、趣味・娯楽などの目的にも対応できるよう資料を管理する。アーキヴィストは資料内容に精通し、アーカイヴズの運営にも精通した高度な知的専門職でなければならない。

### 「2.2.2　アーカイヴズにおける情報資源」

①アートと記号

アートはアートとして形づくられ、扱われることで、アートになる。★6

②記号表現、記号、記号内容

記号表現は記号作用の端緒である。記号表現は人間という主体によって記号内容と結ばれる。記号は記号表現を記号内容と結ぶ作用の中で形成される。★4

### 「2.3　アーカイヴズにおける情報資源の管理」

アートのアートたるは、アートであるとして創作されるだけでなく、アートとしてアーカイヴズ資料となりうると認識されることが必要である。★6このことを前提として、アート・アーカイヴズはアーカイヴズ資料としての独自の情報資源群と独自の利用者群をもって、一つの社会的機能を果たすというコンテキストを有している。

このコンテキストを説明する原理として、書誌コントロールという概念

を用いる。書誌コントロールとは記録された情報を組織化ないし配列し、その結果検索可能な状態にするための働きを言う。索引、目録、分類は書誌コントロールを実現する方法の一例である。★5

「2.4　アーカイヴズの運営」

(1)アートのプロセスにおけるアーカイヴズの役割

アーカイヴズの社会的存在意義は次のように二元的に説明できる。

①アーカイヴズはアートの川上か川下か

アート作品やその記録、並びにその研究成果としてのアート論に関する記録された情報としてのドキュメントの生産から流通という社会的な現象に対峙する。

②アーカイヴズとアートは循環的な関係

利用者としてのアーティストやアート研究者に対峙して、アートやアート研究の新たな創作や生産への媒介的機能とアーカイヴズ独自の情報資源とその利用者群を対象にする社会的機能を果たしている。

(2)アート・アーカイヴズのマネジメント・サイクル

①経営・運営計画

②実行・運営

③活動の評価

## 4. おわりに

日本におけるアート・アーカイヴズの論議は、もっぱらアートの研究者もしくはアート研究出身のアーキヴィストによって展開されている。当然のことではあるが、アート・アーカイヴズの論議はアート研究の視点に加えて、アーカイヴズの視点からの論議も必要である。しかし、わが国におけるアーキヴィストの大半は歴史学研究者か、歴史学出身で、その背景の下に、アーカイヴズ活動は歴史学の一領域という認識の下に論議を展開してきたという社会的背景がある。

翻って、アングロサクソン系の文化の下にある諸外国の状況を見ると、アーカイヴズ活動は図書館活動の一部として、その活動の思想も方法論も図書館学のそれに包含されている。

このような状況を念頭に置き、日本において今後の正常なアート・アーカイヴズの活動基盤となる理論枠組みを構築するためには、現在までの全てのアーカイヴズ研究(研究と呼ぶに値するものがあったかという問題もあるが)を全て見直し、研究対象となるアートに関わる全ての関係記録という意味での情報資料の管理のあり方についての基本に立ち返った検討を行うことが必要不可欠である。その際に本稿の2.に示した構成要素の大まかな枠組みが参考になる。

**註・引用文献**

☆1――高山正也. ジェネティック・アーカイヴ・エンジン (理論編：アート・アー

カイヴズ論の概念枠組みの構築に向けて)，創造的ディジタルメディアの基礎と応用に関する研究，慶應義塾大学SFC研究所，2000，p.384-386〔平成12年度科学研究費補助金（COE形成基礎研究費）研究報告書〕より転載.

☆2――柳井康弘.「ジェネティック・アーカイヴ・エンジン」におけるドキュメンテーションについて．慶應義塾大学アート・センター・ブックレット， No.6, p.12.

☆3――鷲見洋一．ジェネティック・アーカイヴ構築のための基本的歴史概念．慶應義塾大学アート・センター・ブックレット，No.6，p.3-10.

☆4――Warner, Julian．本とコンピュータを結ぶ．勁草書房，1999，p.14-8.

☆5――根本彰．文献世界の構造；書誌コントロール論序説．勁草書房，1998，p.2-3.

☆6――Buckland, M.K.「ドキュメント」とは何か．レコード・マネジメント，No.32，p.35-42.

☆7――中尾佐助．分類の発想．朝日新聞社，1990，331p.